

琵琶湖定点定期観測結果速報(令和4年1月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご留意下さい。

調査年月日 令和4年1月17日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

調査結果

平均値 … 5地点の平均値

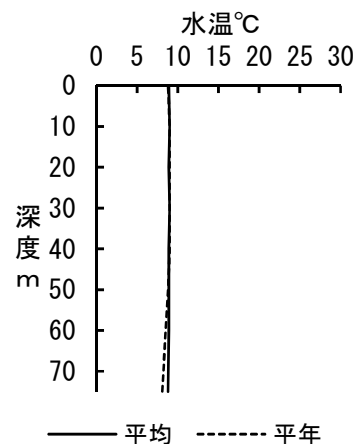
平年値 … 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1991年～2020年(平成3年～令和2年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2012年～2021年(平成24年～令和3年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 1月平均値 7.1m 平年値 7.5m

2. 湖水温 (°C)

深度(m)	1月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	8.9	8.8	+0.1
10	9.0	9.0	+0.0
20	8.9	9.0	-0.1
30	9.0	9.0	+0.0
40	8.9	9.0	-0.1
50	8.9	8.8	+0.1
60	8.9	8.5	+0.4
75	8.8	8.1	+0.7



3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
12月下旬	9.4	9.5	-0.1
1月上旬	7.8	8.3	-0.5
1月中旬	7.4	7.8	-0.4

4. プランクトン沈殿量 (ml/m³)

水層 (m)	1月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	2.8	4.9	-2.1
10~20	1.3	2.0	-0.7
20~40	1.3	1.7	-0.4
40~75	1.6	1.1	+0.5

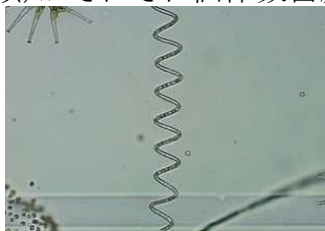
(プランクトンネットNXX14使用)

5. 表層のプランクトン優占種

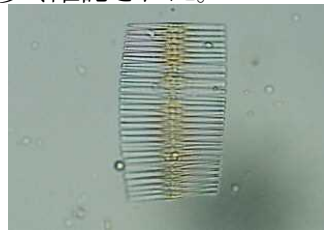
○プランクトンネットNXX14による採集(植物:未固定 動物:5%中性ホルマリン固定)

植物プランクトンについては、全ての地点で *Aulacoseira ambigua* (アウラコセイラ:珪藻) が細胞数で最も多く確認されたほか、地点3、4、5で *Fragilaria crotonensis* (オビケイソウ:珪藻) も細胞数で多く確認された。

動物プランクトンについては、地点1で *Ploesoma sp.* (スジワムシ属:ワムシ類) と *Synchaeta sp.* (ドロワムシ属:ワムシ類) が、地点2、3、4、5で *Eodiaptomus japonicus* (ヤマトヒゲナガケンミジンコ:カイアシ類) のものと思われるノープリウス期幼生および *Kellicottia longispina* (トゲナガワムシ:ワムシ類) がそれぞれ個体数密度で多く確認された。



Aulacoseira ambigua



Fragilaria crotonensis



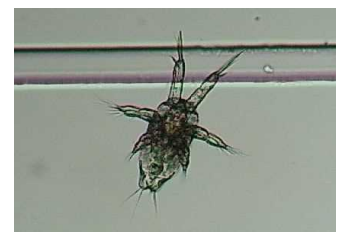
Ploesoma sp.



Synchaeta sp.



Kellicottia longispina



ノープリウス期幼生

6. DO (溶存酸素濃度 : mg/L)

深度 (m)	1月平均値		平年値		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	10.4	92.9	10.5	94.4	-0.1	(-1.5)
10	10.3	91.7	10.3	93.0	0.0	(-1.3)
20	10.0	88.7	10.2	91.9	-0.2	(-3.2)
30	9.8	87.5	10.2	91.6	-0.4	(-4.1)
75	9.6	85.3	7.1	62.2	2.5	(+23.1)